

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年 5月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0890400039		
法人名	医療法人 仁寿会		
事業所名	レーベンス古河 仁寿苑	ユニット名	
所在地	〒306-0221 茨城県古河市駒羽根834		
自己評価作成日	平成26年9月9日	評価結果 市町村受理日	平成27年5月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_021_kihon=true&JigyosyoCd=0890400039-00&PrefCd=08&VersionCd=021
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年11月18日	評価機関 決 済 日	平成27年 5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人のもつ医療支援機能という大きなメリットを活かしながら、より安心して信頼の得られるサービスが提供できるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は病院と併設のため、利用者が急変した時に対応可能であり、宿泊時も安心して利用できるように支援をしている。 准看護師を常勤で配置し、医療的な対応に関して利用者や家族等が不安のないように提供している。 事業所の隣には保育園があるほか、敷地の横は中学生の通学路となっており、地域の子供達との交流を大切にしている。 施設入居とは異なるため、自宅での家族との生活を大切にしながらも、家族の負担感が増加しないように支援をしている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝のミーティングにおいて、理念の唱和を行っているとともに、共有すべき情報を提示しあっている。	法人理念のほか、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念である「望む暮らしの実現」に向け、管理者と職員は取り組んでいる。 理念を職員室に掲示するとともに、朝のミーティング時に唱和して確認をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	傾聴ボランティア等、各種団体の奉仕を受け入れている。事業所からは、職員が休日ボランティアとして年2回自治区の清掃に参加している。	町内会に入っていないが、年2回の自治区の清掃に職員が休日ボランティアとして参加をしている。 地域の傾聴ボランティアや古河ボランティアが週1回来訪し、利用者はゲームなどを楽しんでいる。 事業所に隣接する保育園の園児との交流や事業所脇の通学路を通る中学生との歓談、敬老の日には事業所主催の感謝祭として地区の区長や住民、保育園児が来訪して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅介護支援センター主催の家族教室への協力や、地区民生委員への情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月1回開催、運営状況を報告すると共に、より地域住民との交流を図る上でのご意見を賜り、事業計画に反映させていただいている。	運営推進会議は家族等や市担当者、区長、民生委員などで、2ヶ月に1回開催している。 委員から「小規模多機能施設とはどういうところかを地域住民に認知してもらうため、講演会を開催してはどうか」との提案を受け、地域住民を集めて講演会を開催している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員として、介護保険係長に参加いただくことで、必要な情報提供や助言指導を仰いでいる。	運営推進会議に市職員が参加しており、その際に必要な情報提供や助言を得ている。介護保険法改正時などは、古河市にある3ヶ所の小規模多機能施設の施設長と一緒に市へ出向き、助言を得ている。何か相談ごとがある時にはその都度相談をしており、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	茨城県安全・安心介護サービス向上検討委員会「身体拘束のない介護のための指針」に準じている。	身体拘束についてまとめた「身体拘束に関する確認同意書」を作成し、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。新規採用職員は、「身体拘束に関する確認同意書」について管理者から説明を受けている。管理者は仕事に、身体拘束とはどういうことかをその場で職員に指導をしている。玄関は施錠していない。現在、身体拘束が必要な利用者はいないが、身体拘束に関する同意書は契約時に得てはいるものの、必要になった時の経過観察記録等を整備するには至っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員採用時の研修において学習の機会を設けているとともに、関係通知のある際は周知に努めている。茨城県高齢者権利擁護対策推進委員会安全・安心介護サービス向上検討部会発行、「養介護施設従事者等による高齢者虐待の防止・早期発見のための指針」を掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員採用時の研修において学習の機会を設けているとともに、関係通知のある際は周知に努めている。必要と思われる事例はあったものの、家族間協議により解決、現在まで該当者なし。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず契約書、並びに重要事項説明書を基に十分理解いただけるよう説明を行っている。また、介護保険法改正に伴う介護報酬費等の変更がある際は、家族会を開催することで周知を促し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において定期的に応じているとともに、随時相談にも応じている。連絡ノートを活用している。	利用者の要望は日常のふれ合いの中から聴くように努めている。 家族会はあるが、介護報酬改定の時に開催されたのみで機能はしていない。 家族等との連絡や事業所での利用者の様子のほか、血圧や食事摂取量などを記載する「連絡ノート」を通して、家族等は利用日の事業所での生活がわかるようになっている。 同じページに連絡欄を設け、家族等から「外出を増やして欲しい」などの要望が出され、それをファイルするとともに、過去の記録を見ることができるようなど、運営に反映をさせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人主催、事業所主催の各種会議を開催している。	管理者は朝のミーティングや、月2回開催される職員会議で職員の意見等を聞いている。 職員からの「スプーンの色によっては自力で食事摂取が可能な利用者があるので、スプーンの購入を検討しては」という意見を取り入れた結果、利用者は食事を自力で摂取することができるなど、職員の意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人より、年一回、管理者、職員の自己評価書の提出が義務付けられている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、並びに法人主催の各種研修機会に参加している。スキルアップを目的とした外部研修にも適宜参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	古河さしま地域ケアマネジャー研究会に所属しているとともに、古河市介護保険課主催の各種研修会に参加している。運営上の不詳事項は市内の同種別の事業所（他2ヶ所）と協議し、必要に際しては介護保険課の指導を仰ぐようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に十分に主訴を聴取するよう努めている。利用の初期段階では、なるべく意図的な会話の機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分に主訴を聴取するよう努めている。必要に際しては、訪問等による面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に十分に主訴を聴取するよう努め、適宜サービス計画の変更の提案を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行事準備（飾り作り等）は、職員、利用者の共同作業で行っている。また、洗濯物、清掃用不織布たたみ等、出来る動作を見極めた業務上のお手伝いも行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所は在宅生活の延長であるとの認識から、必要な援助は家族にも協力いただけるよう蜜に連絡をとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望聴取を行い、地域の店屋に外食やショッピングの機会を設けている。家族との絆が途切れないよう、家族の心身の負担軽減も考慮している。	利用者や家族等に馴染みの場所を確認している。 基本的には家族等と生活をしているので、家族等が馴染みの場所に連れて行くこととしているが、家族の負担を軽減するためにも、通所の日に希望があればラーメンやステーキなどの外食や、買い物などの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席次の工夫や、共同で行える諸活動の機会を多く設けることで、良好な交流関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等により契約解除となった際にも、病室訪問や、医療相談員を通じて状況把握に努めるとともに、適宜家族と面談を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、並びにご家族との対話の機会を多く持つよう心掛け、相互に譲歩し合えるようなムード作りを行いながら、本人の望む暮らしの支援が行えるよう努めている。	職員は利用者との日常会話や利用者の行動から、思いや意向の把握に努めている。思いの表出が困難な利用者に対しては、入居時に得た基本情報や家族等から情報を得たり、利用者の言葉や表情から思いや意向を把握したりして、利用者本位の支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介のあった医療相談室や居宅介護支援事業所等関係機関から、事前に情報提供を受けるとともに、契約時にサービス開始に係る必要な情報収集を行う。利用初期段階では、極力本人との意図的な会話を行い、更なる情報収集を行うようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から聞き取りを行っているとともに、必要に際しては、個別訪問することで在宅での生活状態を観察することもある。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活記録に生活状況や気づきを記録し、サービス計画に反映している。	利用者や家族等の意見や要望を聞くとともに、入居時の利用者の似顔絵を書いて顔の変化を観察している。ケアカンファレンスには利用者や家族等も参加し、それぞれの望む生活を確認している。利用者の状況の変化などは全職員で共有し、1ヶ月から3ヶ月でモニタリングをするとともに、必要があれば再アセスメントをして介護計画を変更している。利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直しをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録に生活状況や気づきを記録し、サービス計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別的な視点を常に重視し、限定主義的支援に陥らないよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の高齢者福祉サービスや、民間サービス等インフォーマルサービスを活用することで在宅生活の支障に対応している。一人暮らしの利用者については、近所の知人にも適宜情報提供の上、協力を得ている事例がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設する医療機関への受診支援を行っている。必要に際しては、他のかかりつけ医や眼科・歯科診療の受診支援を行っている。	基本的には隣接している運営母体の医療機関への受診としており、その際は職員が付き添っているが、家族等が医師との連携が途切れないよう、3回に1回は家族等に付き添いを依頼している。 これまでのかかりつけ医を受診している利用者也数名おり、家族等が受診に付き添っている。 受診の結果は「連絡ノート」を利用して職員と利用者、家族等で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に心身状態の変化の把握に努め、看護スタッフ、或いは直接主治医に意見を求めることで適宜診療が受けられるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員への書面による入院時情報提供を行うと共に、入院中においても、病室訪問や家族との面談を行っている。また、退院時には書面による退院時情報提供を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向と、主治医の助言を基に、事業所変更も勘案しながら協議している。	「重度化・終末期に向けた方針」を作成し、家族等の意向と主治医の助言を参考に対応することを入居時に家族等に説明をしている。 事業所は今後看取りを行う方針であるが、看取りを実施するのかがわかりづらい文章となっている。	看取りについて職員との話し合いを持ち、看取りを実施する方向になった場合は、その意向を「重度化・終末期に向けた方針」に記載することを期待する。 現在、一部の職員がタン吸引などの研修に参加しているが、全職員が研修に参加できることを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置等の各研修機会に参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、緊急連絡網訓練を計画実施している。	夜間想定での避難訓練を実施し、問題点や課題などを検討して記録しているが、年1回しか実施していない。 避難訓練に近隣住民の参加を得る対策を運営推進会議で検討はしているが、参加を得るまでには至っていない。 災害に備え法人全体で備蓄をしているが、場所が確保できないことから、事業所独自で備蓄するには至っていない。	避難訓練は夜間想定を含む年2回以上の実施が義務づけられているものなので、年2回以上実施することを期待する。 近隣住民の参加が得られていない点については、引き続き運営推進会議での検討を期待する。 場所の確保が難しく事業所独自の備蓄はされていないが、3日分程度の食糧や水などを独自に備蓄できるように工夫することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や、関わりの中で気づいた利用者の心持等、ミーティング等を通じて報告仕合い、全職員に係る情報を共有することで配慮した関わりに努めている。	職員は利用者が排泄に失敗した時は、周りの利用者に気付かれないように誘導し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めるとともに、関係性の慣れによる利用者への言動にも注意をしている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵がかかるロッカーで保管をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	提案を自ら発せられるような雰囲気作りに心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	提案を自ら発せられるような雰囲気作りに心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は自由としている。希望により理美容店への外出支援、訪問理美容ボランティアを受け入れている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	適宜、主食やおやつ等、職員と共同して調理を行う機会を設けている。	運営母体の医療機関の栄養士が、利用者の状態に合わせて献立を作成し、医療機関の調理室で調理された食事を提供している。 食事形態は、すりつぶしたりペースト状にはせず、固形で素材がわかるようにし、利用者は時間をかけて食事を楽しんでいる。 行事食などは利用者も職員と一緒に作ったり、月2回の誕生会ではケーキなどを楽しんだりしている。 ステーキや生寿司など、好きな物が食べられるように外食支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や管理栄養士の指導を基に、利用者の身体や嚥下状態、嗜好等に応じ、食形態の工夫や自助具、嚥下困難食（トロミアップ、ソフト食）、代替食等を提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者分の歯磨きセットを当方で用意するkとで、毎食後の歯磨き励行を促している。治療を要する際には、家族に掛かりつけ歯科医への受診協力を求める。協力が得難い状況においては、同意確認の上、訪問歯科診療の機会を提供している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意に鈍りが出てきているも、便座で座位がとれる限り、リハビリパンツや尿取りパットを併用することで、トイレでの排泄を促している。	職員は「排泄チェック表」を基に利用者の排泄リズムを把握し、トイレへの誘導支援を行っている。 おむつ使用者が宿泊の際には、昼間はリハビリパンツで過ごし、トイレで排泄することを支援している。 パッド使用者は1人で、その他の利用者はリハビリパンツでトイレでの排泄を支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	制限されていない限り、水分は十分に摂っていただいております。日課に日常生活動作訓練やレクリエーション等運動機会を多く盛り込んでいます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の日課や気分によって、時間帯は調整している。	受診など利用者のその日のスケジュールにもよるが、利用者の希望にそった時間帯に入浴できるように支援をしている。入浴を拒否する利用者には、声かけの時間をずらしたり、他の職員が声かけをしたりして入浴につながるように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等の阻害要因としない範囲において行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の効用、服薬時、服薬量ともに把握しており、定時・随時に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、園芸等、経験知識を披露していただける機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	理美容や外食・ショッピング等の機会を設けている。	天気の良い日には要介護4の利用者も含め、事業所の周りを散歩している。年間の外出計画を立て、カレンダーに予定を記載して外出支援をしている。利用者の希望にそって、ぼんどう太郎への外食ツアーを組んだり、宿泊が長くなる場合には、水などを購入するために、近くのコンビニエンスストアへ買い物に出かけられるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外食やショッピング等の機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	諸活動には、書面を書く機会や発語する機会も多く設けており、コミュニケーション能力の低迷を予防するよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓、吹き抜けを設けることで採光を高め、手狭ながらも開放的な空間を演出している。庭先の花壇には四季折々の草花を栽培している。	居間兼食堂は限られたスペースに建造したので手狭ではあるが、天窓や吹き抜けを設けて採光を取り入れ、開放的な空間となっている。夏など陽射しが強い時期にはよしずを利用し、直接陽射しが利用者に当たらないように工夫をしている。居間兼食堂には利用者の書道作品など、利用者毎にまとめて展示し、過去の作品が見られるようになっている。壁には模造紙を利用して、利用者が制作した柿の木が飾られ、根本には利用者が描いた落ち葉が広がっており、季節を感じられるように工夫をしているほか、壁一面には大きな字で書かれたカレンダーが貼られており、月日がわかり易いように工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室は、いつでも休養できるようベッド・寝具ともに自由に開放している。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はフラット化しており、目的に応じてベッドや高さのある可動式畳を配置できるようにしている。 居室にはベッドやカラーボックスが備え付けられている。 宿泊が長くなる利用者は、家庭で使い慣れたテーブルなどを持ち込み、居心地よく過ごせる空間となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線上に手摺を設置するとともに、段差を施さないことで、極力自立を促せるよう配慮している。車椅子での移動を容易にする為に、玄関、アプローチ、ウッドデッキにスロープを施している。独自のアンケート調査により、利用者、ご家族の意見を参考とした改修も行っている。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目標達成計画

事業所名 レーベンス古河 仁寿苑

作成日 平成27年5月27日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	<ul style="list-style-type: none">・年2回以上の避難訓練の実施・地域住民の参加・事業所独自での備蓄	<ul style="list-style-type: none">・地域住民の方と協力し避難訓練の実施を行う・事業所独自での備蓄を行う	<ul style="list-style-type: none">・年間計画で防災訓練の予定を作成し、運営推進会議にて引き続き検討を行う・近隣の小学校等と防災計画について話し合いを行う・備蓄をする場所を確保し準備を進める	平成27年5月 ～ 平成28年5月
2		<ul style="list-style-type: none">・看取りについての方向性、意向を決める・喀痰吸引研修への参加	<ul style="list-style-type: none">・事業所としての今後の対応を明確にする・喀痰吸引研修を全職員が受講できるようにする	<ul style="list-style-type: none">・職員で今後看取りを実施するかを話し合い、する方向になった場合どういう準備が必要になるのかを確認し、環境作りを進める・喀痰研修を受講できていない職員に対し、受講を勧め、事業所の受け入れ態勢を整える	平成27年5月 ～ 平成28年5月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。